（第８号様式）

2016年4月21日

（あて先）千葉市長

団体名	特定非営利活動法人 VAICコミュニティケア研究所
所在地	〒263－0051 千葉市稲毛区園生町1107番7
代表者 職・氏名	理事長　佐々部　憲子

事業結果報告書（事業改善型提案・課題解決型提案）

次のとおり（　事業改善型提案　・　課題解決型提案　）協働事業の結果を報告します。

事業名	救急車の適正利用促進事業

事業の実施結果

事業の実施状況 及び 事業の成果	＜事業の実施状況＞ ・事業対象者の事前調査活動 各地区民生委員への事業説明と対象者に関する情報収集 社会援護課、高齢障害支援課、健康課、こども家庭課、あんしんケアセンターへの事業説明と対象者に関する情報収集 ・担当ケースワーカーの訪問活動に同行し、対象者に個人情報についての本人確認 ・生活保護受給者でない65歳以下の対象者に対して消防局で電話かけ ・事業対象者のかかりつけの病院へのヒアリング調査 ・事業対象者の個別支援計画の作成 ・個別支援計画に基づき、電話による定期連絡を実施し、対象者との関係性の構築をはかった ・12月よりサロンを定期開催し、関係性の構築ができた2名に関して参加呼びかけを行った。（対象者の体調が悪かったり、都合が悪いなどの理由で、1回ずつしか参加がなかった。） ・街かど福祉相談員養成講座 開催目的を啓発活動に変更し、「救急車の要請からみえてくること」を開催（地域住民、民生委員、自治会など22名参加） ①救急車の出動の現状について ②生活保護の現状について ③精神疾患の人が地域で生活するうえでの課題について ④グループワーク「地域の中で私たちにできること」 ⑤まとめと提案「街かど福祉相談員の役割と意義」

	＜成果＞ ・事業対象者の個別支援計画作成のためにケースワーカー、民生委員をはじめとする事業対象者のまわりにいる支援者に対する事業説明をおこなったことや地域住民に対して事業説明をする機会が持てたことで、救急車の適正利用の理解が広がった。 ・救急車出動件数に対しての直接的な支援ではなく、事業対象者と関係性を構築することで間接的な支援ができた。 ・生活に様々な課題を抱えながらこれまで相談に結びつかない人たちの掘り起しとなり、生活課題に対しての相談対応をしているケースがある。 ・行政担当者とケース会議を実施したケースがあった。また、担当ケースワーカーに状況報告をするなど情報共有ができ、行政担当者との信頼関係を構築できた。 ・啓発講座「救急車の要請からみえてくること」を開催したことで地域課題について参加者の共通認識を深めることができた。
事業の実施期間	2015年4月1日～2016年3月31日